

六十れ歳のしも大患後
 静養中一生も回想して
 貧乏けれど卑しくなるなり
 我が父は何より老きに悔(ゆる)り
 一筋に我が心行守り来て安ふに
 老いぬ奉とぞ思ふ
 古稀近くなりし身なほ軽からぬ
 病に闘けど癒(な)らずけり
 老の身は長き病のやしなむに
 るはう心もなやまずけり
 世の業に心残りず生けり同の
 其日其時あだしからずそ

深井英五

深井英五自作の和歌

同志社中学校蔵
 三十五×六十六センチ
 本文七十一頁参照